

第 80 回 火力専門委員会 溶接分科会 議事録

- I. 日 時：2018 年 7 月 23 日（月） 13 時 30 分～17 時 40 分
- II. 場 所：東京大学 工学部 三号館 424 会議室
- III. 出席者：青山(東大)、鈴木(MHPS)、長谷川(発電技検)、逢澤(MHPS 日立)、幅野(IHI)、
水谷(東工大) 飯島(日溶協)、大橋(中電)、堀(関電)、高内(神戸製鋼)
- 欠 席：倉富(東電 FP)、原田(東芝)、飯田(東電 HP)
- 代理出席：なし
- オブザーバー：なし
- 事務局：原

IV. 配付資料

- 80-1 第 79 回溶接分科会議事録(案)
- 80-2 溶接分科会委員名簿
- 80-3 第 84 回火力専門委員会報告
- 80-4 第 86 回発電設備規格委員会議事次第
- 80-5 火力専門委員会書面投票 No.75(第Ⅱ章材料 意見対応による修正)結果報告
- 80-6 火力専門委員会書面投票 No.76(第Ⅲ章ボイラ 改訂提案)結果報告
- 80-7 規格委員会書面投票 No.399(201X 年改訂第Ⅵ章非破壊検査)結果報告
- 80-8 用語集(映写のみ、今回はなし。)
- 80-9-1 規格委員会書面投票 No.399 の書面投票意見と意見対応案
- 80-9-1-補足 1 意見対応補足資料 1(MHPS 長崎)
- 80-9-1-補足 2 意見対応補足資料 2(日本溶接協会)
- 80-10 レビュー票(第Ⅶ章、ダブルチェック結果反映、今回はなし)
- 80-11 第Ⅶ章 溶接施工法・溶接技資料 改訂提案資料
- 80-12 審議履歴表

V. 議事

1. 前回議事録確認 [資料 80-1]
前回議事録(案)について確認を行い、議事録(案)が承認された。
2. 分科会委員・役員の承認 [資料 80-2]
退任委員、新任委員候補、再任委員候補はなし。
3. 報告事項 [資料 80-3]
 - (1)火力専門委員会報告
6 月 4 日開催の第 84 回火力専門委員会の主要項目が報告された。
 - 火力専門委員会委員、各分科会委員の承認
 - 第 79 回溶接分科会(4/23)の報告
 - ・第Ⅵ章火力専門委員会書面投票の意見対応に関する審議

- ・発電用火力設備規格 201X 年版の第Ⅶ章溶接施工法・溶接技量の改訂提案資料の確認（アーティクルⅣ後半、補遺）

○審議結果報告

- ・発電用火力設備規格詳細規定Ⅵ章 201X 年改訂案の火力専門委員会書面投票 No.74 の意見対応による修正案が承認されたこと。
- ・発電用火力設備規格詳細規定（201X 年版）第Ⅲ章 ボイラの改訂が提案されたこと。
- ・火力専門委員会書面投票 No.73（201X 年版改訂提案 第Ⅱ章材料）の書面投票意見対応による修正案（書面投票中）の補足説明。

(2)規格委員会報告 [資料 80-4]

6月 14 日開催の第 86 回発電用設備規格委員会の主要項目が報告された。

- ・火力専門委員会(6/4 開催)報告
- ・発電用火力設備規格詳細規定Ⅵ章 201X 年改訂が提案され、規格委員会の書面投票の実施が承認された。

(3)規格委員会書面投票 No.399(6/15～7/17)結果報告 [資料 80-7]

発電用火力設備規格 201X 年版 詳細規定 第Ⅵ章 非破壊検査の改訂案の規格委員会書面投票の結果が報告された。賛成票が 2/3 以上あり、反対票がなかったため可決となった。現在、意見対応中。

(4)火力専門委員会書面投票 No.76(6/5～7/5)結果報告 [資料 80-6]

発電用火力設備規格 201X 年版 詳細規定 第Ⅲ章 ボイラの改訂案の規格委員会書面投票の結果が報告された。賛成票が 2/3 以上あり、反対票がなかったため可決となった。現在、意見対応中。

(5)火力専門委員会書面投票 No.75(5/30～6/29)結果報告 [資料 80-5]

火力専門委員会書面投票 No.73（201X 年版改訂提案 第Ⅱ章材料）の書面投票意見対応による修正案の投票結果が報告された。賛成票が 2/3 以上あり、反対票がなかったため可決となった。意見対応は6月 27 日に完了。

4. 審議事項

(1)用語集の確認

新たな追記・変更箇所はなし。

(2)規格委員会書面投票 No.399 の書面投票意見と対応案について [資料 80-9]

鈴木副主査が資料に基づき意見対応案について説明し、審議を行った。コメント、確認事項は以下のとおり。（＊鈴木副主査作成の意見対応表のコメント反映版を正とする。）

○意見 No.2

以下の内容を含んだ回答案に修正する。

- ・火技解釈との整合性、構造側から呼び込んでいるなど、必要なものは取り込むようにしている。
- ・参照規格である ASME 規格と JSME 規格との違いを補遺に記載するのは適さないと考える。

○意見 No.3

- ・資格の相互認証の動きなどについて追記する。

○意見 No.5

- ・「typ」については、他の必要な箇所に水平展開する。

○意見 No.6、11

- ・対応案（最終案）どおりとする。
- ・第七章について、確認する。

○意見 No.44

- ・検査する対象により周波数 0.5MHz まで使用可能ということなので、問題ないと思われるが、事務局で元々の周波数範囲設定の審議経緯を調べる。

○意見 No.65

- ・対応案（最終案）どおりとする。
- ・表 D-490 データ記録例は例ではあるが、誤解を招かないよう数値を四捨五入するなどして見直す。

○意見 No.86

- ・検査法ごとに一般的に使われている表現に合わせてことばを使い分けているので、そのことを記載する。

○意見 No.95

- ・有効数字を合わせていることなどを追記する。

■今後の予定

メールベースで連絡を取りながら、作業を進める。

- ①鈴木副主査が、今回の審議を反映した書面投票対応案を 8 月中旬頃目途に作成し、各委員がこの対応案を確認する。

確認された意見対応案は、火力専門委員会三役の確認を得たのち、意見者に回答する。

- ②並行して、8 月下旬を目途に各担当委員は意見対応を反映した新旧対比表の修正作業を行う。意見対応を範囲した修正箇所は、前回の火力専門委員会書面投票時と

同様に、青字・下線とすると共に、改訂内容欄に該当する「意見 No. xx 対応」を記入する。

③意見対応による修正案は、9月14日の火力専門委員会、9月20日の規格委員会にそれぞれ提案し、審議の予定。

(3)発電用火力設備規格 201X年版 第七章 溶接施工法・溶接技量の提案資料の確認
資料に基づき、ア－ティクルⅣの後半、補遺の確認を行った。コメント等は以下のとおり。

○QW-432

- ・ JIS 規格で追補があるものは、追補も見ることの一文を、タイトルのすぐあとに記載する。
- ・ JIS 年版の見直しについては、見直し内容に合わせて改訂内容を見直す。

○QW-442

- ・ C r の量が変わっているので、改訂内容を記載する。

○QW-452.

- ・ 一般注の追加部分を下線・赤字とする。

○QW-463.1 (b)

- ・ 追加箇所があるので、改訂内容を記載する。

○QW-463.2 (b)

- ・ 追加箇所があるので、改訂内容を記載する。

○QW-466.3 一般注 (a)

- ・ OW → QW は、④表現の修正ではなく、⑤誤記の修正。

○補遺 1,2,他

- ・ 表現の見直し → ④表現の修正（他に合わせる。）

○補遺 QW-200.1

- ・ JSME 改訂の反映 → ④表現の修正（用語の統一なので。）

○補遺 QW-200.3、QW-219.1

- ・ 過去の改訂内容を解説した補遺については、第Ⅵ章の火力専門委員会での意見を受け、個々のケースを判断し過去の履歴が良かった方が良いものは残すこととする。
- ・ QW-200.3 については、現状案どおり削除、QW-219.1 については残すこととする。

■今後の予定

メールベースで連絡を取りながら、作業を進める。

- ① 8 月下旬を目途に、今回の審議コメントを反映した新旧対比表(アーティクルⅣ後半と補遺)の見直しを行う。
- ② 上記を受けて、9 月上旬に第Ⅶ章の改訂提案資料一式を取りまとめ、各委員に確認していただき、9 月 14 日に予定されている火力専門委員会に提案する。
- ③ 火力専門委員会提案後、1 ヶ月の火力専門委員会の書面投票を実施する予定。

Ⅵ. 次回開催予定

- ・日時：2018 年 11 月 7 日（金） 13 時 30 分～17 時
- ・場所：東京大学工学部（本郷）

以 上